

う え だ 市議会だより

令和4年9月定例会
令和4年11月16日号

No.90

上田市人生100年時代をより良く生きる健康づくり条例
制定記念式典・講演会

食事

運動 健(検)診

～健康づくりの三要素～

テーマ
人生100年時代を健康で自分らしく生きる
健康は「食事」「運動」「健(検)診」から



講演

諏訪中央病院名誉院長
鎌田 寛先生

長
鎌田 寛先生



当日の様子はこちら

「上田市人生100年時代をより良く生きる健康づくり条例」制定記念式典・講演会を開催!

議会トピックス CONTENTS

○令和3年度一般会計決算特別委員会
を設置。附帯意見を付し認定
(一般会計決算額 770億 2,504万円)

クローズアップ! 検証

議会意見から、市の対応と
経過どうなったの?

○一般質問で24人市政を問う!

県下初の議員提案による「上田市人生100年時代をより良く生きる健康づくり条例」が4月1日から施行され、市主催の制定記念式典と講演会が7月29日サントミュージゼで開催されました。

佐藤議長は「『健幸都市うえだ』の実現に向け、市民の皆様にも自らの健康に積極的に関心を高めていただきたい、市議会も更に責任と役割を担うと誓います」と挨拶しました。



目次

令和3年度一般会計決算	2～3、8～9
令和4年度一般会計補正予算	4～7
一般質問 24人の議員が市政を問う	10～18
皆さまからの陳情3件を審査	19
市議会レポート・手話を学ぼう	

令和3年度決算額

(一般会計・特別会計)

歳入総額 1,154 億円

歳出総額 1,118 億円

会 期

8月29日から9月28日まで (31日間)

議 案

条例案7件、決算認定13件、予算案3件、事件決議案5件、人事案件1件、意見書1件 合計30件を全て可決、認定、または適任と決定

一般質問

24人の議員が一般質問を実施 ▶▶▶ 質問要旨は10Pから掲載

附帯意見を付す

決算を認定した上で、3項目について「附帯意見」を付しました。

○内部統制の整備について

令和3年度財政援助団体等監査において指摘された市指定管理施設の管理運営問題では、複数回に渡る所管課の変更等により事務担当者としての認識と責任感が欠如し、条例等に抵触する状態が長期に及んでいたことなどから、チェック体制など内部統制が確立されていないことが確認された。

執行機関における内部統制の実効性を高めるため、上田市監査委員の審査意見書及び第四次上田市行財政改革大綱アクションプログラムに登載されているとおり、内部統制の基本方針の策定とその体制整備を計画的に進めること。



○未利用土地の一元管理と利活用の促進について

上田市においては、人口減少とそれに伴う経済産業活動の縮小により、市税収入の大幅な伸びが期待できない中、高齢化の進行に伴う社会保障費の増加が見込まれている。

このことにより、市財政は今後ますます厳しさを増していくことが予想されるとともに、更なる自主財源の確保が求められることとなる。

令和3年度においては未利用土地の調査及び売却等が進められたが、今後も継続して推進する必要があることから、一般会計、特別会計及び土地開発基金等が保有している土地の一元管理と活用方法等について他自治体の先進事例も参考としながら検討し、未利用土地の利活用を促進すること。

○基金の活用について

上田市が有する基金の中には、平成18年の市町村合併以降に一度も取り崩したことがない基金があり、これらは基金本来の目的である事業への活用が十分になされていない状態である。

市民要望の具体化のために厳しい財政運営を強いられている一方で、長期間基金が活用されていないことは、財政運営上の課題であるとともに寄附者の意向にも沿わないことから、長期間活用されていない基金の活用方法について検討すること。

附帯意見とは…議会または委員会において議決された事件に関して、付随的に付けられる意見。法的拘束力を有するものではありませんが、市は意見を尊重することが求められます。

9月定例会 概要

令和3年度一般会計・特別会計 決算を審査 附帯意見を付し認定

決算

「令和3年度一般会計決算」を審査

認定



上田市の決算

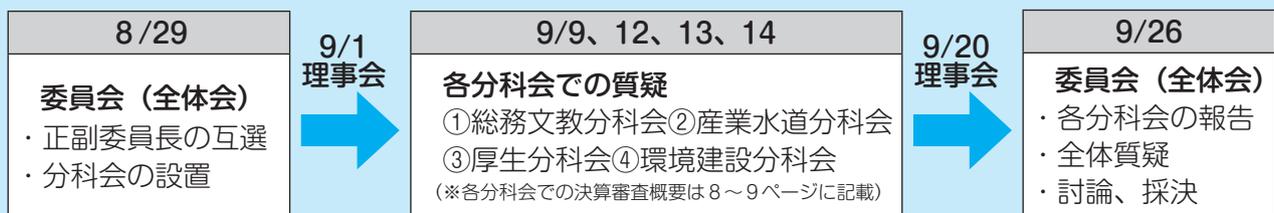
決算審査とは・・・

令和3年度の予算が適切に使われたか審査します。

上田市議会では、一般会計決算特別委員会を設置し、4つの分科会に分かれて決算審査を行っています。

【一般会計決算特別委員会 審査の流れ】

委員長：西沢 逸郎 副委員長：松尾 卓



クローズアップ！ 検証

令和2年度一般会計決算認定に際し、 付した附帯意見に対する市の取組はどうなった？

附帯意見

○公共施設マネジメントの推進

上田市公共施設マネジメント基本方針の実行計画として位置づける公共施設の個別施設計画については、各所管部署において策定を進めてきたが、現在、34類型中8類型において計画策定に未着手であり、策定及び実行が遅れている状況にある。

類型ごとの具体的な対応方針を定める個別施設計画は、戦略的に公共施設をマネジメントしていく基本方針を遂行するための基礎となることから、早急に全類型における個別施設計画の策定及び取組を推進すること。

○地方創生の推進

上田市においては、地方創生推進交付金を活用するなどして、人口減少への歯止めと地域社会の維持・活性化に向けた施策を展開しているが、人口減少率の低下といった効果を上げるまでには至っていない。

県内においては、人口が増加に転じている自治体もあることから、人口増加率の高い自治体の施策を調査研究するなど人口減少対策を強化し、人口減少幅の縮小に向けた地方創生の取組を着実に推進すること。

市の取組

個別施設計画については、34類型中、33類型について策定済みとなった。



また、施設の集約化、複合化及び耐震化、ユニバーサルデザイン化を実施した。

少子化という課題に着目し、国の「少子化対策地域評価ツール」に基づき、少子化の原因把握と地域課題や資源の洗い出しを行い、具体施策の立案を図る上で内閣府の伴走支援を活用できる事業の採択を受け、「地域アプローチによる少子化対策の推進に関する調査研究事業」を実施している。

条例改正

上田市交流文化芸術センター条例中 一部改正など全7件

可決

◆上田市交流文化芸術センター条例中一部改正

上田市交流文化芸術センター運営検証委員会の答申を踏まえ、運営協議会で適正な受益者負担等の見直し方針が示されたことから施設使用料等の改定について所要の改正を行うもの。

◆上田市立美術館条例中一部改正

市民の利用実態等を踏まえた、市民アトリエ・ギャラリー及びアトリエの利用区分、時間区分及び使用料等の改定について所要の改正を行うもの。

◆上田市営住宅等に関する条例中一部改正について

令和5年度から市営住宅の管理業務を長野県住宅供給公社に管理代行を実施するにあたり、所要の改正を行うもの及び令和2年度の民法改正等に伴い、所要の改正を行うもの。



◆上田道と川の駅交流センター条例中一部改正について

上田道と川の駅交流センターの適正な管理運営に向け、貸館機能を廃止することとし、指定管理者が行う業務について、所要の改正を行うもの。

事件決議

国補道路メンテナンス事業橋梁上部工事 (神川橋)請負契約の締結など全5件

可決

◆国補道路メンテナンス事業橋梁上部工事（神川橋）

請負契約の締結（契約額：1,055,820 千円）

◆書かない窓口システムの購入（契約額：23,100 千円）

◆電子カルテシステムの購入【武石診療所】（契約額：44,990 千円）

◆新第二学校給食センター厨房機器の購入（契約額 423,674 千円）

◆「上田市過疎地域持続的発展計画」の策定



神川橋工事箇所

人事案件

人権擁護委員の推薦につき意見を求める ことについて

(敬称略)

適任

かなめ 要 (五加)
たかふみ 貴文 (小泉)
のだ あつこ 淳子 (下長瀬)
くぼた そうじ 久保田 荘司

なかむら 中村 みかり (荻窪)
しおさわ としみち 汐沢 俊道 (横尾)
みやはら みえ 宮原 美恵 (町原)

陳情・意見書の審査は P19 に掲載

議案
補正予算
概要

令和4年度上田市一般会計補正予算 第4号及び第5号を審査

可決



上田市の予算



補正予算(第4号)の事業をピックアップ

広報広聴事業

646 千円

市の情報発信力を強化・充実させるための上田市公式 LINE 導入に必要な経費の計上

原油価格・物価高騰 対策支援金

177,679 千円

消費者物価の上昇による生活への影響に対する支援策として、以下の世帯に支援金を給付する。

【対象世帯】 上田市に住民登録がある住民税所得割非課税世帯で一定の条件を満たす世帯

- ・ 65 歳以上の高齢者のみの世帯等
- ・ 児童扶養手当を受給している世帯 等

【給付額】 1 世帯あたり 1 万円

運送事業者等 事業継続支援交付金

24,000 千円

急激な原油価格高騰により多大な影響を受けている運送事業者に対し、事業継続のための支援を行う。

地方と都市をつなぐ地域創生 プラットフォーム創造事業負担金

3,000 千円

東京都練馬区に市内産品を常設販売するアンテナショップを開設し、市内中小事業者の販路拡大を図る。

森林経営管理制度事業

6,500 千円

市内民有林について、次年度以降の森林の経営管理を推進するため、対象森林の絞り込み施業プラン作成のための市内森林の特性を反映した森林基本情報の図面等を作成する。

暮らしを守る 公共交通支援事業

29,835 千円

原油価格高騰により燃料費・動力費が大幅に上昇しており、交通事業者の経営基盤維持のため、県と協調して支援を行う。

河川敷体育施設 管理事業

8,000 千円

ニュースポーツやイベント開催など多様なニーズに対応するため、諏訪形グラウンドを拡張整備する。

学校給食管理運営事業

4,700 千円

学校給食員の新型コロナウイルス感染等により、給食の提供ができない場合を想定して、非常食を備蓄する。

保育所施設整備事業

16,270 千円

公立保育園等における感染症対策に係る水道の温水化等のための経費の計上

福祉医療費給付拡大事業

2,120 千円

令和5年度から子どもの医療費助成区分を 15 歳から 18 歳に拡大するための事務費の計上

道と川の駅管理運営事業

10,695 千円

簡易ハウス等撤去費用の一部負担及び、施設の安全性を向上させるための整備費用等の計上

補正予算(第5号)の事業をピックアップ

消費喚起応援事業

100,000 千円

物価高騰に直面する事業者及び生活者を支援するために実施するスマートフォンアプリを活用した消費喚起応援事業(第4弾)に係る経費の計上

新型コロナウイルス ワクチン接種事業

374,484 千円

オミクロン株対応ワクチン接種及び小児(5~11歳)への3回目接種実施に係る経費の計上



総務文教委員会

●9月9日・12日に開催し、
条例案4件、決算認定1件、
予算案1件、事件決議案2
件、陳情3件の審査を行いました。

一般会計補正予算第4号

問 学校給食管理運営事業費では、
新型コロナウイルス感染症等
により給食の提供ができない
場合を想定して、非常食として
約1万3000食を備蓄する
ための経費を計上しているが、
商品の選定に当たっては、食育
の観点から管理栄養士などの
意見を参考にしているか。また、
非常食にも賞味期限があるが、
どのように取り扱うか。

答

非常食の選定に当たっては、管
理栄養士の意見を参考にし、
全国学校栄養士協議会が推奨
する救給力レーを備蓄する。ま
た、救給力レーの賞味期限は約
3年であるため、賞味期限内に
使用しない見込みとなった場
合は、防災教育の一環で防災給
食として実際の献立に取り入
れて消費した後、新たに買い足
していく予定である。



産業水道委員会

●9月13日・14日・28日に開
催し、決算認定3件、予算案
2件の審査を行いました。

一般会計補正予算第4号

問 地方と都市をつなぐ地域創生プ
ラットフォーム創造事業負担
金について、東京都練馬区にア
ンテナショップを開設すると
のことだが、運営形態はどうか。
答 上田商工会議所ほか商工団体が
実施し、販売事業だけでなくプ
ロモーションも含めた運営を
市も連携して展開していく予
定である。

上田市水道事業会計決算

認定及び剰余金処分

問 令和3年度の^{*}有収率について
は84・2%と、他市と比べると
少し低いが、有収率を向上させ
るための取組はどうか。

答

これまで、漏水調査はメーター
を一つ一つ確認して行ってい
たが、令和4年度から、人工衛
星を活用して、衛星画像をA I
技術により解析する方法を導
入することで、漏水調査の効率
化を図る。



水道管の漏水

※「有収率」供給した水量（配水量）に対する、水道料金の対象となった水量（有収水量）の割合を示す数値。
率が高いほど良く、漏水が発生した場合、有収率が低下する。



「常任委員会」では、条例や補正予算、事件決議など一般会計決算以外の議案の審査を行いました。

9月9日・12日・28日に開催し、決算認定5件、予算案3件、事件決議案1件の審査を行いました。

上田市介護保険事業 特別会計決算認定

問 令和3年度の配食サービス事業利用人数は令和2年度に比べ同程度であるが、高齢化が進む中でさらに利用を広げていく考えはあるか。

答 配食サービス事業は、手渡しで行うため、利用者が配達時間に行っている必要があるといった条件などから利用に至らないケースもある。しかし、食の確保に加え、見守りを目的とした

事業であることから多くのの方に利用いただきたいと考え

ており、地域包括支援センターや民生委員と連携し、必要な方への利用を助めていきたい。



一般会計補正予算第4号

問 福祉医療費給付事業の児童区分の拡大に向けた準備事務費が計上されているが、制度改正に向け、周知はどのように行っていくのか。

答 対象見込みの方には、通知を行うとともに、広報などによる周知も図りたいと考えている。

上田道と川の駅交流センター条例中一部改正

問 今回の条例改正を踏まえ、上田市として道と川の駅のコネクトに合う機能にしていこうとが重要だが、どのように取り組んでいくのか。

答 今後、指定管理者の候補者選定において、道と川の駅の目的などをしっかり入れ込んでもらい、国が推奨する「地方創生・観光を加速する拠点」としての道の駅第3ステージにふさわし

● 9月13日・14日に開催し、条例案3件、決算認定3件、予算案1件、事件決議案2件の審査を行いました。

い施設になるように、市として取り組んでいきたい。



書かない窓口システムの購入

問 このシステムを導入することにより、転入手続きなどでどのくらい時間を短縮できると想定しているか。

答 3月の一番の繁忙期に、窓口で申請用紙を受け取り、記入し、職員が受付をして処理を行い、最終的に証明書が発行できるまでの所要時間を試算したところ、約26分ほど短縮できるのではないかと試算している。

厚生委員会

環境建設委員会

総務文教分科会

●9月9日・12日に開催しました。

に、組織の必要性も検討しながら、内部統制の制度化に向けた研究を進めていきたい。

問 財務に関する事務について、不祥事未然防止手続きを取りまとめること及び職員の意識啓発を進め、内部統制を3年程度で制度化できるように実効ある取組を実施することを監査委員審査意見書では指摘しているが、内部統制の導入に向けてどのように取り組んでいくか。

答 現在、長野県内では県のみが導入しているが、上田市も導入の必要性を認識しており、今後、県や先進自治体等の調査研究を進めていきたい。また、職員向け研修を実施して※コンプライアンスの徹底を図るとともに、組織の必要性も検討しながら、内部統制の制度化に向けた研究を進めていきたい。

問 他の事業会計や他の部局に散在する未活用土地を財産活用課と所管課が連携して精査し、活用と処分を行うことが効果的かつ効率的であると監査委員審査意見書では指摘しているが、未活用土地の活用状況はどうか。

答 平成28年度に長野県宅地建物取引業協会と協定を締結し、入札しても応札者がいない土地などの売却を同協会と連携して進めており、令和3年度までの累計では9件で約5200万円の売却が成立している。

産業水道分科会

●9月13日に開催しました

研究会負担金について、当研究会ではどのような活動をしているのか。

問 U-Jターン就業・創業移住支援事業補助金について、事業実施による効果はどうか。

答 令和3年度の実績として、東京都から4名、千葉県から2名、埼玉県から1名の移住があり、その勤務先は地元の製造業、自動車販売業、その他病院、IT企業等となっている。移住者が地元企業へ就職することで人材不足の解消につながり、加えて、比較的技能が高くと、所得の高い方が移住する傾向があることから、市内での消費にもつながっていると考える。

答 上田市ワイン用ぶどう栽培促進研究会は、同負担金を活用してワイン用のヤマブドウの試験栽培を行い、オリジナル品種の特徴的なワインを開発し、栽培面積拡大と生産者の確保を図ることを目的に設置された。現在は、栽培したワイン用ブドウを毎年収穫・醸造し、その醸造されたワインの成分分析や、飲んでもいただくことでアンケータを行う等の活動をしている。

問 上田市ワイン用ぶどう栽培促進



一般会計決算特別委員会分科会 審査概要

※「コンプライアンス」組織が法令遵守、倫理観、公序良俗などの社会的な規範に伴い、公正・公平に業務を行うこと。



「一般会計の決算議案」は※特別委員会を設置し、その中に常任委員会を単位とする分科会を設けて審査を行いました。

※委員は、議長・監査委員を除く28名です。

●9月9日・12日に開催しました。

問「上田市手話言語の普及及び視

聴覚障害者等の意思疎通手段等の利用促進に関する条例」が施行され、令和3年度で1年が経過したが、手話言語に関する事業の成果はどうか。

答 手話通訳派遣事業は、令和3年度の謝礼が170万円余で、令和2年度に比べ20万円余増えており、通訳の派遣機会が増えたことから利用しやすくなったものと捉えている。また、手話奉仕員養成講座は、条例制定後、広く市民に周知され、令和3年度はレベルアップ講座を含め、修了者が31人となった。

問 健康づくり応援アプリ「うえい

く」は一定程度認知されてきていると考えるが、さらに市民の活用を促すための方策はどうか。

答 SNSの活用により若い世代の利用促進を図りたいと考えている。また、QRコードを用いたポイント付与など、利便性を向上させる機能の充実について検討していく



うえいくホームページ



●9月13日・14日に開催しました。

問 令和3年度は移住者や空き家バ

ンクの利用者が増えているが、その要因は何か。

答 移住者については、昨年度過去最高の移住者数となったが、オンラインで積極的に市の魅力を情報発信するとともに、移住セミナーや相談会を数多く行い、空き家バンクについても、魅力的な空き家など物件確保に努め、ホームページやインスタグラム、ツイッターなどSNSで積極的に情報発信を行った。このような取組の積み重ねにより徐々に効果が出てきたものと考えている。

問 街路鳥害等対策事業委託につい

て、対策の内容と効果はどうだったか。

答 鳥害等対策事業委託は、主に上田駅のお城口と温泉口に集まる鳥の対策業務で、内容としては、高木の強剪定やネットを張ることで、鳥を近寄せないようにする等を行った。最近は、ムクドリ等の被害や苦情等の報告もなく、効果が出てきているものと思われる。



厚生分科会

環境建設分科会

24人の議員が市政を問う

9月定例会一般質問要旨

新型コロナウイルス感染症対策として、質問時間を通常より10分間短縮して、一般質問35分で実施しました。

答弁者名は以下のとおり省略して記載しています。

市長…市長	教育長…教育長
政策企画…政策企画部長	総務…総務部長
財政…財政部長	市民まち…市民まちづくり推進部長
福祉…福祉部長	健康こども…健康こども未来部長
商工観光…商工観光部長	農林…農林部長
都市建設…都市建設部長	武石センター…武石地域自治センター長
上下水道…上下水道局長	教育次長…教育次長

掲載記事は、質問議員本人が作成しており、質問全体の一部を要約したものです。質問全体の内容については、会議録に掲載しています。会議録は、議会事務局、市内図書館、公民館および上田市議会ホームページからご覧いただけます。

なお、一般質問は上田ケーブルビジョンおよび丸子テレビ放送のご協力により、生放送と録画放送を行っています。またインターネットによる生中継と録画配信も行っています。

本会議の生中継及び録画配信を行っています。
上田市議会インターネット中継専用サイトからご覧ください。



自主防災組織の役割

矢島 昭徳 (上志の風)

問 消防団員減少に対する地域防災力確保のために、自主防災組織の活動が重要であるが、現状と今後の取組はどうか。

答 (総務) 市内には241自治会全てで自主防災組織が組織されているが、地域住民が主体となり共助を担う位置づけで継続的に活動していくことが重要である。平常時に地域の防災訓練の実施、災害時には避難所の開設、被害状況の把握や対応、地域の実情に即した活動

を実施していただいている。市としては自主避難計画や地区防災計画の策定など先進事例の紹介、活動支援による強化、育成に取り組んでいく。

問 地域災害活動協力者に対する優遇措置等の対応はどうか。

答 (総務) 優遇措置などの措置は現状では設けていない。しかしながら負担の軽減に配慮し、防災協定などの締結など検討していく。

●その他の質問項目

- ・農業耕作者支援、新規就農者支援



上田市の地域医療の現状と課題

土屋 勝浩 (新生会)

問 上小地域医療再生計画が終了して9年経過するが、上田の医療はどう変わったか。

答 (健康こども) 医師確保事業等により、中核病院である信州上田医療センターの常勤医師数は、平成22年の36人から令和4年4月時点では85人と大幅に増加した。さらに、上田地域全体の医師数・看護師数も令和2年12月末現在、医師が324人、看護師が1,944人となっており、平成20年と比較して医師

は31人、看護師は577人それぞれ増加している。また、圏域外への救急搬送割合も、平成20年の17.4%から、令和元年は12.0%にまで改善し、着実に医療体制の整備が図られてきている。

問 武石診療所の基金残高は毎年取り崩しが進み、あと数年で底をつくことが予想されるが、市として今後のあり方をどう考えているか。

答 (武石センター) 基金枯渇の場合は一般財源からの繰入れを検討するが、当面は、ふるさと寄附金の活用により基金が枯渇することがないように取り組んでいく。



香 害

石合 祐太 (新生会)

問 強い香りで体調に不調をきたす方がいることから市の執務空間で香料を過度に使用しない対応や職員の接客研修で香りのエチケットについて取り扱うことはできないか。

答 (総務) 使用にあたり、一定の配慮を求めたい。平成 22 年に上田市役所職員接客マニュアルを作成し香りに関わることも記載した。職員の接客研修ではマニュアルも参考に引き続き接客の向上に努めたい。

問 小中学校入学時等に記載する保健調査票に化学物質過敏症の兆候も記載するようにできないか。

答 (教育長) 現在、直接的な記入欄はないが、保護者が不安な項目を学校へ伝えやすい保健調査票となるよう、養護教諭の意見を聞き検討を進める。

●その他の質問項目

- ・消費者トラブル
- ・ゲノム編集農産物

※「香害」…化粧品や香水、合成洗剤、柔軟剤などに含まれる合成香料の匂いによって不快感や健康への影響が生じること。
 ※「ゲノム編集農産物」酵素を使用しゲノム（DNAの遺伝情報）を構成するDNAを切断し、遺伝子を書き換える技術を用いて作られた農産物。



シェアサイクル事業

飯島 伴典 (上志の風)

問 実務二年目における改善点はどうか。

答 (都市建設) 賃借サイクルポートを中心市街地5か所から、要望の多かった所を含め広範囲に11か所へ増設した。また、自転車は新車45台にグレードアップを行い、利用者のニーズに合わせた料金設定とした。

問 ビッグデータ活用の可能性はどうか。

答 (都市建設) ビッグデータを分析し、道路等の利用頻度により自転車走行の快適性を高め

るため、段差を解消するほか、通行しやすい環境を検討する。集中して立ち寄っている場所に、新たなサイクルポートの設置も検討する。観光利用のデータを分析することで、おもてなしに関するサービスに繋がると考えている。データは、毎月報告されているので、利用状況を把握し、今後も利用者の満足度を高め、定期的な利用が促進されるよう努めていく。

●その他の質問項目

- ・市街地の野鳥対策



ネーミングライツの早期実施

松山 賢太郎 (仁政会)

問 実施に向けてのガイドライン策定や市内施設選定等を早急に実施できないか。

答 (財政) 先進事例を参考に、上田独自の制度になるように努める。民間事業者等が応募しやすいよう導入条件は必要最小限とし、施設特定型と提案募集型の両方の方式で募集環境を整備する。現状では具体的に施設選定はしていないが、ガイドライン策定と具体的導入に向けての制度構築を目指していく。

問 試験的に小規模かつ短期的な募集を早急に実施し、具体的な課題や各種評価等を得ながら募集運営ノウハウを蓄積する考えはあるか。

答 (財政) まずは低料金かつ短期間でも募集を始めることは大変重要であり、早期に取り組む必要があると考える。ネーミングライツの導入・運用にあたっては十分な周知・PRを図りながら幅広く募集を実施し、対象施設や契約料・金額等の提案を受け入れながら実施ノウハウの蓄積や効果の評価・検証に繋げる。

※「ネーミングライツ」…公共施設の名前(愛称)を付与する命名権と、附帯する諸権利のこと。



少子化対策

中村 知義 (上志の風)

問 結婚支援事業等の取組はどうか。

答 (市民まち) 結婚適齢期世代の結婚に向けた意識の醸成、出会いの場の支援や情報提供等を上田市縁結びプロジェクトとして実施した。また、居住費及び引っ越し費用の一部を補助し、婚姻に伴う経済的負担を軽減する事業を実施した。

問 0歳児から2歳児の保育料をさらに軽減する考えはあるか。

答 (健康こども) 軽減は予定していないが、他の自治体の取り組みなど考慮しながら、保育料の軽減だけでなく、多様なニーズに答えられる子育て支援策を検討する。

問 今後どのように少子化対策を進めるか。

答 (政策企画) 多様な観点から検討が行えるよう、少子化対策に関する部局から、年齢層や男女比に考慮した12人の職員を選出し、プロジェクトチームを設置し、年5回のワークショップを行う予定である。

●その他の質問項目

・コンパクトシティ



市長の政治姿勢

久保田 由夫 (日本共産党上田市議団)

問 旧統一教会関連団体の会合に出席した際、挨拶は行ったか。また、同団体の活動や理念を賛辞したか。

答 (市長) 挨拶はしたが、団体の活動を賛辞するような内容は含んでいなかったと記憶している。

問 政治で最も大切なのは信頼である。今後、市長は同団体とは、全く関わりを持たないということでよいか。

答 (市長) 旧統一教会は社会的な問題を指摘されている団体であり、関連団体であっても、行政や政治家個人として接点を持つことは団体の活動にお墨つきを与えることになりかねない。これまでの一連の対応を率直に反省し、今後一切の関わり合いを持たないよう一層慎重に判断していく。

●その他の質問項目

・西内小学校の統合



コロナ禍における観光産業の支援

金井 清一 (上志の風)

問 感染警戒レベルが6となる中で、今後の観光産業に対する支援をどのように進めるか。

答 (商工観光) 感染状況が改善次第、国では、全国旅行支援を開始する予定となっており、こうした制度を活用しながら、多くの皆様を上田市を訪れていただけるよう、首都圏を中心にPRを展開するとともに、観光キャンペーンや物産展など機会を捉え、積極的に誘

客促進を進めていきたいと考えている。新型コロナウイルス感染症第7波により感染者数の高止まりが続いていることから、まずは、徹底した感染対策を講じていくとともに、各観光協会など関係団体の皆様とも連携し、イベントのみならず、上田ファンづくりに向けたPR、そして観光コンテンツの磨き上げなど更なる誘客促進を図ることで、市内観光地に1日も早く活気に溢れた賑わいを取り戻せるよう引き続き取り組んでいく。

●その他の質問項目

・森林経営管理制度と森林環境譲与税



ギフテッド教育

池田 総一郎 (上志の風)

問 日本では米国などと比べてギフテッド教育が大きく立ち遅れている。先天的に人並外れた才能(IQ130以上)を有する子どもたちの能力を最大限に引き出すことが地域や国家の飛躍的発展に大きく寄与することになる。こうした子どもに適合する教育システムを一日も早く構築すべきと考えるが、市の見解はどうか。

答 (教育長) 第3期上田市教育支援プランにおいて、全ての子どもに寄り添った支援を基本

施策に掲げ、一人一人の特性や教育的ニーズを把握し、その可能性を最大限に伸ばすことができるよう、きめ細やかな支援を推進している。子どもたちがそれぞれの資質、能力を最大限に伸ばしていけるような環境を整えていくことが大切であると考えている。教育委員会としても、ギフテッドの特徴をよく理解し、その子の才能に合った学びを提供できるよう、教育体制について国の動向を注視し、準備をしていく。

※「ギフテッド」…生まれつき知性が高く、特定の能力が突出している先天的な特性を持つ人のことを称した言葉。



市街地での内水氾濫対策

斉藤 達也 (新生会)

問 7月末のゲリラ豪雨による内水氾濫の際に、蛭沢川調整池はどのように機能したか。また課題は何か。

答 (都市建設) 7月29日の集中豪雨では、貯水容量6,000m³の約半分程度の雨水を貯留したことより、一定の効果を発揮した。7月30日は、朝からポンプによる排水を実施していたが、再度、集中豪雨が発生したため、排水を急遽中止

し、約2,000m³を貯留したところで満水に近い状態となった。課題としては、今回のように事前に水位を下げしておく時間的な余裕がない場合、果たすべき雨水の貯留が十分にできなくなる場合があることから、ポンプ機能の向上を図る必要がある。また、蛭沢川の上流域に当たる押出川の流域を含めた神科地区南側から一帯の雨水排水を直接神川へ流下させる神科台排水路を整備しており、早期完了を目指す。

●その他の質問項目

- ・公共施設の将来に渡るコストの見える化と公共施設マネジメントの推進



公共交通支援

林 和明 (新生会)

問 乗合や予約制のデマンド型交通を導入してタクシー事業者と連携することはできないか。

答 (都市建設) タクシー事業の活用をはじめとした既存の交通事業者との共存や役割分担について十分配慮しながら、引き続き交通事業者との連携を図り、他自治体の事例を参考にし、調査研究を進めていく。

問 地域住民の自主運行による交通手段やボランティア輸送に対する具体的な財政支援につい

て検討状況はどうか

答 (都市建設) 財政支援については、旅客運送サービスの位置づけや既存の公共交通機関との役割分担を考慮しつつ、安心安全な移動サービスの運営方法や利用状況を確認する中で、まちづくりや高齢者の移動支援の視点による部局横断的な連携を図りながら現在も検討を進めている。

●その他の質問項目

- ・仮想、拡張現実の応用



防災知識の普及啓発

松尾 卓 (公明党)

問 防災知識の普及啓発の取組の成果と今後の課題はどうか。

答 (総務) 自治会や住民組織等が中心となり、防災マップ、地区防災計画の作成、防災講演会の開催などの取組が顕著になっている。一方、人口減少や地域とのつながりの希薄化により、担い手不足が課題となっている。

問 地域の取組や課題を踏まえ、地区防災マップや防災計画と個人の防災対策をリンクさせる

など、自助の充実を図る好機である。今後、市民向け防災講習会の開催や防災ハンドブックの作成や配布の考えはあるか。

答 (総務) 市民向け出前講座の計画的に向け、関係機関と連携を図り、市民に呼びかけていく。本年度、防災知識を掲載した災害ハザードマップを更新し、各戸配布を予定している。

●その他の質問項目

- ・防災センター



上信自動車道と上田地域広域幹線道路網

高田 忍 (社志会)

問 上信自動車道と上田地域広域幹線道路網等の整備の動向はどうか。

答 (都市建設) 上信自動車道の延長約 80km 中群馬県側では 21km が供用開始になっている。長野県境の鳥居峠付近の 11km は調査区間ではあるが長野県は群馬県と協力してルート選定を行っており現在有望なルートについて路線の概略設計を実施している。促進期成同盟会としては、様々な機会を捉え国や県に対して早期事業化をお願いしている。松

本佐久連絡道路、上田諏訪連絡道路は、令和 3 年に国の新広域道路交通計画の構想路線に位置付けられた。20 年から 30 年の中長期的な視点で検討されたものであり、今後検討を進めていく。国道 254 号バイパスの整備は、丸子地域で県が実施していて、現在は、残りの荻窪バイパスの整備を進めている。国道 152 号バイパスは、大屋駅周辺の慢性的渋滞解消を目的に県が検討しているものであるが、地域のコンセンサスを得る努力をしている。

●その他の質問項目

- ・トライアル・サウンディング事業
- ・武石地域のインバウンド対策を含めた観光振興



水道事業の広域化

尾島 勝 (新生会)

問 上田市の水道水が、市の事業から県の事業に変わるという広域化の話が進行する中、老朽化や耐震化に課題のある浄水施設や管路、また新たな水源について、今後、上田市水道ビジョンで示したとおりに進めていくのか

答 (上下水道) 施設や管路の更新及び耐震化、また新たな水源である滝の入水源については、計画に沿って今後も着実に進める。

問 広域化の課題は上田市にとっても住民にとっ

ても水道料金に直結する大きな問題であり、一度連携したら抜けることは困難と考える。上田市として独自に有識者会議を開き十分な検討が必要と考えるが見解はどうか。

答 (上下水道) 水道事業は市民の皆様からの料金で経営をしている独立採算制であり、大変関心の高いものと認識している。今後、有識者の意見を伺う場を設置したいと考えている。

●その他の質問項目

- ・(仮称) 道の駅まるこ



事実婚とパートナーシップ宣誓制度

齊藤 加代美 (新生会)

問 事実婚の手続きを希望する二人の意思を尊重してどのような案内をしているか。

答 (市民まち) 同一世帯に住民票を記載する申出があった際には、世帯主及び該当者に、住居と生計を共にし、事実婚関係にあることを記載した申出書を提出していただいている。事実婚として夫婦である証明があれば法律婚同様に、さまざまな権利が適用され、不妊治療も補助対象となる。

問 誰でも幸せな家族の単位を築く権利がある。

駒ヶ根市は、県下初の事実婚を含めたパートナーシップ宣誓制度を4月に導入したが、事実婚を含めた二人の関係性を担保するパートナー証明書を発行できないか。

答 (市民まち) パートナーシップ宣誓制度は県内では松本市と駒ヶ根市で導入され、県として令和5年4月の制度執行を目指す方針が示されている。市としても県と連携を図りながら情報共有を行い、必要な対応を遅滞なく進める。

●その他の質問項目

- ・温泉施設を活用した健康づくりと医療費削減効果
- ・観光振興

※「パートナーシップ宣誓制度」…一方又は双方が性的マイノリティである二者が、互いを人生のパートナーとして日常生活において協力し合う関係であることを宣誓し、その宣誓を市が受け止める制度。



生活保護制度

古市 順子 (日本共産党上田市議団)

問 コロナ禍における生活保護の相談、申請、利用開始件数の推移はどうか。

答 (福祉) 令和3年度は生活相談が443件、保護申請が179件、保護開始が152件である。前年度と比較するといずれも減少しているが、コロナ禍の影響を受ける前の平成30年度と比較すると、令和3年度は約1.3倍となっている。

問 ケースワーカー一人当たりの担当件数の推移

はどうか。

答 (福祉) 今年7月末現在、保護世帯数は約85世帯で国の基準を超過している状況である。

問 ケースワーカーは専門性と対人能力が求められるが、人事異動の考え方はどうか。

答 (総務) 社会福祉士等の専門職員に加え高いコミュニケーション能力や冷静沈着な判断力を有する職員の配置に努めてきた。今後も適材適所の配置に努めていく。

●その他の質問項目

- ・コロナ禍における生活支援、経済対策



人生100年時代を健康に過ごす為の予防医学の推進

飯島 裕貴 (仁政会)

問 コロナ禍の口腔ケア指導の現状はどうか。

答 (健康こども) 令和元年は、健康教室等に市の歯科衛生士や依頼した歯科医師が年間19回出向き指導を行ってきたが、令和3年はコロナの影響もあり対面での実施が難しく年間2回にとどまった。このような状況だがライフステージに応じた口腔ケア指導は重要となるので引き続き市民へ受診勧奨、周知啓発に努める。

問 「人生100年時代をより良く生きる健康づくり条例」第5条第2項に基づき高齢者の歯科検診データの蓄積、フレイル予防のさらなる推進を図るべきと考えるが見解はどうか。

答 (健康こども) 現在健康推進課で次期健康づくり計画策定のアンケート調査を実施しており、高齢者介護課で第8期上田市高齢者福祉総合計画にてフレイル予防疾病対策に取り組むとしている。今後医療、介護、保健等データを一体的に分析し庁内横断的なオーラルフレイル、口腔ケア事業の取組みを検討していく。

●その他の質問項目

- ・野菜の接種量向上とフレイル予防



上田市のワイン振興

武田 紗知 (上志の風)

問 市内全域の児童生徒を対象にしたワイン用ブドウの栽培や生産等の体験機会を設けてはどうか。

答 (農林) 現在、梶子ヴィンヤードにおける活動の多くが丸子地域の小中学校にとどまっている。広く市全体で、取組の拡大が可能かワイナリーやブドウ生産者、関係団体とともに検討する。

問 市のワイン文化醸成における長期的なビジョ

ンはどうか。

答 (農林) ワインが文化として根づくためには、長期的に継続した取組が不可欠であり、先を見据えたビジョンを生産者や市民の皆様と共有していく必要がある。まずは産地化そして産業化、最終の目標としてブランド化に取り組んでいく。

●その他の質問項目

- ・市街地の治水対策



生きづらさを抱えている方が生活していくための支援

金沢 広美 (公明党)

問 認知症の方を支える民生委員・児童委員の役割はどうか。

答 (福祉) 「認知症サポーター養成講座」の受講を研修の一つとし、地域で認知症の方を支援し、見守りを行う役割を想定している。

問 若年性認知症による障害者手帳の取得と障害者年金の受給はできるか。

答 (福祉) 認知症の場合は精神障がいにより分類さ

れる。判定基準に該当する障がい状態と認定されると、「精神障害者保健福祉手帳」が取得できる。障害年金も、日本年金機構で定める障がいの程度に該当し、障害年金の受給要件により受給できる。医療診断と審査機関による審査が必要である。

問 認知症の理解を進める活動として、市内図書館に特設コーナーを設けることはできないか。

答 (教育次長) 広く市民生活に関わる大切なテーマであることから、今後関係課とどのような取組ができるか検討するとともに、図書館の資料も配置したテーマコーナーを設け、情報の発信に努める。



人口減少の歯止め施策

堀内 仁志 (上志の風)

問 上田市の人口減少に歯止めをかける施策の現状はどうか。また、どのような施策が効果的と考えるか。

答 (政策企画) 人口減少・少子高齢化対策においては、働く場の創出、子育て支援、移住定住促進などに力を入れており、交付金を活用し具体的な施策の推進を図っている。様々な取組を複合的に進める必要があり、バランスよく進めていくことで成果に現れてくると考えている。

問 上田市に愛着を持つ方への移住定住を促すための情報発信及び魅力アピールの現状はどうか。

答 (市民まち) 全国規模の移住交流イベント等で、住居状況や、U・I・Jターン就職支援、創業支援、新規就農支援、子育て支援など上田市の暮らしに関わる情報提供を行った。また、上田市に興味を持つ人と地域住民が交流できる、オンライン交流サイトの開設を計画しており、上田市の大きな魅力である暮らしやすさ、住民の魅力を体感できる交流機会の創出なども検討していく。

●その他の質問項目

- ・高齢者へのDXの推進



情報発信と情報収集

半田 大介 (公明党)

問 8月に提供を開始した母子手帳アプリ「うえだっこ」において防接種オンライン申込み、リモート相談など双方向の活用を行う考えはあるか。

答 (健康こども) 月齢に応じたお知らせ機能など、情報発信の利便性を高め、将来的には便利で利用しやすいアプリになるよう取り組む。

問 市が導入を予定している公式 LINE の使い方として、双方向での情報収集と登録者への返

信対応はどうか。

答 (政策企画) 友達登録した方からの個別書き込みは返信しないが、アンケートなどの情報収集機能を活用することを検討したい。

問 市のアプリ・SNSの登録者数を増やすための取組をどのように進めていくのか。

答 (政策企画) 部署によって情報発信頻度に差がある。登録者数や閲覧数が伸び悩んでおり、全庁的な管理で数を増やすことも必要と感じる。

●その他の質問項目

- ・最低賃金 31 円引上げによる課題



コロナ禍のコミュニティ・スクール (CS) への影響

井澤 毅 (新生会)

問 コロナ禍で、CSは機能していないと考えるが見解はどうか。地域との関わりが強い学校ほど影響は大きいと考えるが把握しているか。

答 (教育長) 影響は様々な場面に出ている。地域との関わりが強い学校ほど支障が出てきている状況にあり大きな課題と捉えている。

問 コロナ禍で地域住民が参加できず行き届かなくなっている学校の環境整備などに対し、財

政面での対応が必要だと考えるがどうか。

答 (教育長) 予算の増額は大変厳しい状況だが、適切な対応がとれるよう努力したい。

問 コロナ収束後、CSの機能を回復させるには、コロナ禍で学校運営への参加を離れた地域住民の関わりが今まで以上に必要と考えるが見解はどうか。そのための方策はどうか。

答 (教育長) 学校支援プロジェクト会議にて解決に向け取組の推進と検討を重ねている。

●その他の質問項目

- ・国道 143 号の整備と安全確保



上田道と川の駅

宮下 省二 (社志会)

問 昨年 12 月に監査委員から指摘された上田道と川の駅の条例違反等の原因は何か。

答 (都市建設) 度重なる担当課の所管替えに加え、役割や事業展開が複合的、多面的で対応が困難であった事。当初の構想ビジョンが引き継がれてこなかった事、法令、条例にのっとり適切に指導監督が及ばなかった事、平成 29 年に市議会環境建設委員会からの指摘に対し、適切な対応ができなかった事などある

が、今後は職務にまい進していく。

問 指定管理者の国の評価はどうか。

答 (都市建設) 実績が評価され法律に基づく 2 つの団体から県内で唯一指定されている。

問 条例の規定に沿わない施設の調査を行う考えはあるか。

答 (市長) 全ての指定管理者施設を対象に、関係法令に沿った施設運営が行われているのか実態調査を行い、適切な対応に努めたい。

●その他の質問項目

- ・火の見やぐらの撤去
- ・水辺プラザの利活用



観光行政一本化について

村越 深典 (杜志会)

問 市では、来春大規模な組織改正を予定しているが、4地域の観光事業を総括する部署を設置することを検討できないか。

答 (総務) 上田市における事務処理を所管する部署については、上田市組織規則において定めている。3地域を含めた全市的な観光事業については、総括的に推進するため、観光課においてチラシの作成など調整を図っている

が、周知やプロモーションに関しては、観光以外の事業と併せて、広報シティプロモーション課を中心に関係課と取り組んでいる。令和5年度組織改正においては、全市的なシティプロモーションを一元的に総括して担う部署を検討するという中で、観光行政の統括機能の強化や各地域の観光事業の連携などを考慮し、組織の見直しを進めていく。

●その他の質問項目

- ・冬季市道の除雪
- ・善光寺御開帳、諏訪大社御柱祭開催に伴う上田市への経済波及効果

傍聴者の声

本会議を傍聴されたみなさんの声

～こんなご感想をいただきました～

9月定例会本会議の傍聴者数は延べ40人でした。

傍聴された皆さんから寄せられた、ご感想やご意見の一部を紹介します。いただいたご意見は、これからの議会活動の参考にさせていただきます。



- 一般質問は35分での実施であったが、スピーディーさがあり、時間いっぱい使い、できるだけ答えようとする姿勢が良かったです。
- 議員は市政発展のための地域の課題を取り上げているので前向きな検討を市にお願いしたい。
- 初めての議会傍聴なので、非常に勉強になりました。今後関心のある質問については傍聴したいと思います。

本会議をぜひご覧ください。

- Q** 傍聴ができる方は？ **A** どなたでも議会の傍聴ができます。(予約不要)
- Q** 事前の手続きは？ **A** 市役所本庁舎5階の議会事務局で受付をして傍聴券を受け取ってください。
なお、現在、新型コロナウイルス感染症対策として、氏名・住所・電話番号の記入、検温にご協力をいただいておりますのであらかじめご了承ください。
- Q** 傍聴席の数は？ **A** 現在、新型コロナウイルス感染症対策として傍聴席を減らしており、16席となっています。
- Q** 満席の場合は？ **A** 議場には入れませんが、議場外に設置のモニターで視聴できます。



12月定例会は**11月28日** 開会予定です。

日程が決まりましたら、11月下旬に市議会ホームページに掲載します。



意見書

「1件」の意見書を可決し、
国へ提出しました。意見書の全文は
こちら

森林環境譲与税の譲与基準の見直しを求める意見書

森林の整備や保全等を目的として配分される森林環境譲与税について、現行の譲与基準による都市部と地方との配分額の格差を是正し、真に必要な地域に配分されるよう譲与基準の見直しを国に要望するもの。



みなさまからの陳情3件を審査

陳情番号	件名	提出者	審査結果
陳情第7号	地方たばこ税を活用した分煙環境整備に関する陳情	長野県たばこ販売協同組合 理事長 岸田 豊 氏	継続審査
陳情第8号	「小人数学級推進のための教育予算の確保」・「義務教育費国庫負担制度の堅持」を求める陳情	上田市教職員組合 執行委員長 岩月 充子 氏	不採択
陳情第9号	「へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すこと」を長野県知事に求める陳情	上田市教職員組合 執行委員長 岩月 充子 氏	不採択

※継続審査…会期中に議決に至らなかった議案について閉会中及び次の会期に審査を継続させること。

市議会では、皆さんの要望などを請願や陳情として受け付けています。

請願

請願権は、憲法において基本的権利として認められています。
所管する委員会に付託して審査を行い、その結果をもとに、本会議で結論（議決）を出します。請願は紹介する議員が必要です。

陳情

陳情は、請願に準じた取り扱いをしています。
議会事務局に持参し、提出された陳情は所管する委員会に付託して審査を行いますが、本会議での議決は行わず、委員会の審査結果を本会議で報告します。紹介議員は必要ありません。

12月定例会で審議・審査する請願・陳情の提出期限

11月29日（火曜日）午後3時まで

請願・陳情のやり方



市議会レポート



上田市立第一中学校キャリア学習に参加！

広報広聴委員8名で2チームに分かれて参加しました。
市議会にとっても興味を示してくれました。将来が楽しみです。



生徒達の感想・印象に残っていること

- ①「初心忘れるべからずという気持ちでこの仕事をしている」と聞いて、それはどの仕事をやる時にも大切になるんじゃないかと思った。
- ②「わたしたちは24時間働いています。」という言葉に、24時間丸一日働いていると自分に自信を持てるのはすごいと思った。自分も誇りを持てる職業につきたいと思いました。
- ③「悩みを抱えた人の力になりたい」「誰でもなりたい職業につくことができるような世の中にしたいたい」など市議会議員になったきっかけがたくさんあった。
- ④年4回の会議と聞いて、年4回なら仕事少くない？と思ったが、話を聞くにつれ、会議以外にも毎日いろんな仕事があるとわかりました。
- ⑤市民からの「ありがとう」というその一言が活動の原動力になるという言葉

上田市議会では、キャリア学習等、皆様の学校にいつでも出向きます。お気軽にお問い合わせください。
(上田市議会事務局 0268-22-0452)

予告

令和4年度議会報告オンライン配信を
12月上旬に予定しています。

視聴はこちら



手話を学ぼう

市議会だよりでは、「いま覚えてほしい手話」をお伝えしています。

今回のテーマは **「たすけて」**

“長野県ホームページ”
「手話辞典」



親指を立てて握った手にもう片方の手の平を自分に引き寄せるように数回当てる。

編集後記

うえだ市議会だよりをご覧いただき誠にありがとうございます。
私たち広報広聴委員は毎号、分かりやすく読みやすい誌面を心掛け、委員皆で議論を重ねながら編集作業を行っています。
編集作業では、議員各自の「表現の自由」を尊重しつつ、市民の皆様への影響力を考慮し、情報発信には細心の注意と責任を持って臨んでいます。
ところで、7月には広報広聴委員で第一中学校のキャリア学習に参加しました。生徒さんの前向きな質問も嬉しく、また、二人の委員が中学時代から議員を目指していたことは驚きで、参加した委員もいい刺激になりました。
今後、委員会として皆様が待ちわびる紙面づくりに心掛けていきます。

広報広聴副委員長
金沢 広美